(5) 免疫異常疾患（リウマチ，アレルギー）

越　智　隆　弘

IMMUNOLOGICAL DISORDERS (RHEUMATIC AND ALLERGIC DISEASES)

Takahiro OCHI

従来のナショナルセンターと異なった形での政策医療展開の方法として，政策医療ネットワークの形が作られて稼働し始めている．ナショナルセンターのような一施設集中型でなく，全国ネットワークをうまく活用すれば，特徴的な診療および医療研究の発展が期待できると思う．政策医療ネットワークが始まったばかりの未熟な段階で，平成16年から独立行政法人化されることによって政策医療の展開は大きく影響される．各政策医療が活発に展開されてゆくには，不採算でも是非必要と思われる部分には運営費交付金などによる支援が必要となる．さらに，政策医療ネットワークの各施設が本当に適切であるのかを短年度後に見直すことも必要になる．

1）各政策医療ネットワークが活性化されるためには，構成施設のスタッフが夢を持って取り組める方向で進められるべきである．個々の施設や小グループでは出来ない臨床研究が，ネットワークがあるからこそ出来るという現場の声が得られるものであって欲しい．その為政策医療ネットワークを活用する臨床研究が推進されていることは大きく評価される．さらに意欲に富んだ医師を集めるには，大学の研究者も併せての厚生科学研究費枠の競争的研究費獲得には，厚生労働省傘下のネットワーク施設のスタッフには当然，多少なりともアドバンテージがあるというようにして欲しい．これは，優秀な医師を集めるきっかけになる．

2）現在の政策医療ネットワークの構成施設が適切であるか否かには疑問がある．これは数年以内に見直され，適切な施設の再選択がなされるべきである．ネットワークの施設が再選別されても，上記1）の方向性が進んだ場合に，ネットワーク内各施設間での診療，臨床研究レベルの高低が出てくるだろう．その差を作らないために，施設間でのスタッフを一定期間でも流動化でき，全体が活性化できるような体制が徐々に作られるべきである．

3）独立行政法人化により進めやすくなる臨床研究に臨床治験がある．現在行き詰まっている臨床治験を進める核として政策医療ネットワークが活用され，厚生科学研究費に支援されることは望ましい．

数例を挙げたが，各政策医療展開の中で独立行政法人化がおよぼす利点，欠点を早急に解析して時期を逸せぬ対応を考えておくべきである．

（平成16年2月19日受付）
（平成16年3月19日受理）

国立相模原病院（現：独立行政法人国立病院機構相模原病院）Nasional Sagamihara Hospital 院長
Address for reprints：Director, National Hospital Organization Sagamihara National Hospital, 18-1, Sakuradai, Sagamihara 228-8522 JAPAN
Received February 19, 2004
Accepted March 19, 2004